

耐震診断結果の見方

- 耐震診断結果の一覧と附表の次の項目から、各建築物の安全性に関する評価が確認できます。

耐震診断結果の公表

建築物の用途				耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果			耐震改修等の予定		備考
NO	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途					内容	実施時期	
1		平塚市 町1番2号		5-3 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	I_s/I_{s0}	0.67	$C_{TU} \cdot S_D$	0.52	耐震改修	平成29年度予定

- 建築物の耐震診断の診断方法を記載しています。
- 耐震診断の結果の場合は診断時の年度、改修後の結果の場合は改修時の年度に応じた診断方法を記載しています。
- 附表から同じ診断方法を確認し、診断結果がどこにあてはまるか確認します。

この部分が安全性に関する指標値です

- 各建物の耐震化の状況や今後の予定等が記載されています。内容や時期が未定の場合は空欄となっています。

附表 耐震診断の評価と結果の構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
	大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い	大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある	大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い
3-2 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.8 \frac{I_s}{q}$ かつ 1
5-1 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1977年版)	$I_s / I_{s0} < 0.5$	左右以外の場合	$1.0 \frac{I_s}{I_{s0}}$
5-2 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1990年版)	$I_s/I_{s0} < 0.5$ 又は $C_T \cdot S_D < 0.15$	左右以外の場合	$1.0 \frac{I_s}{I_{s0}}$ かつ $0.3 C_T \cdot S_D$ 1.25 $1.25 < C_T \cdot S_D$
5-3 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{s0} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \frac{I_s}{I_{s0}}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U C_{TU} \cdot S_D$
5-4 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1992年版)	$I_s / I_{s0} < 0.5$	左右以外の場合	$1.0 \frac{I_s}{I_{s0}}$